

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2025 年 6 月

第 134 号

主な予定

6 月 10 日 (火)

13:30~14:30

柏第五小学校 146 名

6 月 11 日 (水)

9:00~9:30

松葉第一小学校 119 名

6 月 12 日 (木)

12:30~13:30

増尾西小学校 108 名

6 月 23 日 (月)

10:00~11:00

高柳西小学校 44 名

6 月 23 日 (月)

15:00~16:20

文化財保存活用計画審議委員会

6 月 25 日 (水)

11:15~11:45

船橋時活村

樹木銘板

橋本谷 弘司

「この木なんの木 気になる木 名前も知らない木ですから 名前も知らない 木になるでしょう・・・」と歌われている日立の CM ソング (伊藤アキラ作詞、小林亜星作曲) があります。

当初はモデルになる木がありませんでしたが、その後、モンキーポッド (ハワイのオアフ島) などの木が登場します。

公園などを散策していて、この木は何だろうと思うときに銘板があると助かり、その木に親しみを覚えます。また、この木の名前はこうだろうと思って、銘板を見て正解だと嬉しくなります。

当園の樹木銘板は 6 種類、計 300 枚程度あります。

銘板の木製支柱が腐ったものは、随時取り換えています。今回、科名が変更になったり、汚れていたりしている銘板を取り換えると共に新たに十数種の銘板を設置しました。

当園で科名が変更になったものは、ムラサキシキブ (クマツヅラ科→シソ科)、エノキ (ニレ科→アサ科)、イロハモミジ (カエデ科→ムクロジ科) など、近年の DNA 鑑定の成果により変更になっています。

今回の設置にあたって当 NPO 会員の中野さんの協力を得て、インクの異なる二種類の試作品を作製し、2023 年 1 月に現地に設置しました。インクジェットは家庭用のプリンターでも作製できる利点があるので試してみました。上側はレーザープリンター (顔料トナー)、下側はインクジェットプリンター (染料インク) で出力したものです。直接に陽が当たらない「イヌシデ」の銘板は、2 年以上経過していますが余り変化ありません。しかし、陽当りの良い所に設置した「エゴノキ」の銘板は、インクジェットプリンター (下側) の方がより日焼けしています。したがって、劣化の少ないレーザープリンターによる出力を採用しました。

今回の銘板は種名と科名を記載したシンプルなもので 50 枚作製しました。

科名変更で積み残している銘板については順次進めていきます。今回の銘板作製では経費節減と資源を大事にする観点から使用済みのアルミ板を再生しましたが、アルミ板にくっついていて両面テープを剥がすのが大変な苦勞でした。



柏市教育委員会で設置



市販品の銘板



説明文付きの銘板



イラスト付きの銘板



種名と科名のみの銘板



子供たちの手作り銘板



2023 年 1 月に設置した試作品の銘板

4月30日(水) 千葉大学「緑地環境学実習」

理事長 萩原 秀夫

2月に千葉大学園芸学部緑地環境学科の高橋輝昌教授よりご連絡をいただき、新年度の2年生を対象とした必修科目「緑地環境学実習」において、こんぶくろ池自然博物公園の紹介、NPOによる活動の説明と公園見学を行ってほしいとのご依頼をいただきました。

新2年生約70名と引率の先生方3名での来園ということで、過去にはこのような大人数かつ大学の必須科目での講義を行った経験はありませんでしたが、授業の対象地として千葉大学のキャンパス近くにあるこんぶくろ池自然博物公園を選んでいただき、公園やNPOについて勉強していただけるというのは大変ありがたいお申出でしたので、是非引き受けさせていただきたいと思いました。

当初は約3時間の授業時間の中でどのような内容で行うのが良いかのイメージがつかめませんでしたが、3月1日(土)に梅木清教授、野田勝二助教授が下見に来園され、岡本さん、中川望さん、上田さんと共に、一号近隣公園からこんぶくろ池エリアまで約2時間案内をしました。

そして、千葉大学柏の葉キャンパスでの屋内講義と屋内実習のミックスで行うこととなり、屋内講義では私から30~40分程度公園の概要とNPOの活動内容を説明し、学生さんにイメージを持っていた上で一号近隣公園からこんぶくろ池エリアまで2班に分かれて、それぞれ上田さんと私が説明しながら歩いて回ることにしました。

天気だけが心配でしたが、4月30日は晴天で、学生69名(登録70名のうち1名欠席)と先生方3名が参加されました。

講義では縄文時代からこの土地がどのように変遷し、なぜ奇跡的に希少な植物が残っているのかを理解してもらい、周りが開発されていく中でこの土地の意味、公園の存在意義を感じていただきたい思い説明しました。また、NPOとしてもこの自然環境を守っていくために活動計画を立てながらも、自然相手に臨機応変に対応していること、柏の葉の新しいまちづくりへの貢献や、子供達への環境教育にも力を入れていることを伝えられればと話しました。

その後一号近隣公園のゴルフ場の痕跡や秋水燃料庫を見ながらこんぶくろ池エリアに移動して行きましたが、座学だけではピンと来なかったそれぞれのエリアの違いや、すぐ近くで大規模なオフィス開発が



行われているすぐ横に、鳥の囀りが聞こえる広大な森と湧水が残っている希少性なども感じてもらえたのではないかと思います。

まだ2年生になったばかりですので、それぞれの専門や研究テーマなどが決まっているわけではないようですが、ランドスケープという幅広い学問領域で、何か気づきや興味を持てる分野のイメージが朧げにも沸いてくれれば良いなと思います。

彼らが4年生になった時にこんぶくろ池自然博物公園をテーマに論文を執筆したり研究をしてくれる学生さんがこの中から出てきてくれるとうれしいですね。



令和七年春季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

野にぬつとメドゥーサのごとく蕨かな
無愛想な売り子レジ横に葶
飛花落花叶わぬ思い積もりゆく
桜咲く紅葉マークのクルマかな
珈琲や物価を語る夫婦かな
子が集うワタラセの野やズミの花
喜寿の春落とす失くすの幕が開く
陽光にカワセミの羽根輝きて
快晴の爽やかな朝ツバメ舞う
森に咲くヒトリシズカよ何を待つ
雪解けの水が運んだ春爛漫
鳥運ぶ酸実いつの日か花となる
一粒の種育ち咲く花白し
花や花生きてあらばこの世かな
先行きは危うし帰る花の道
日々北へ動く日の出もゆる新緑
花びらを額で受ける花見かな

あおはもゆ
あおはもゆ
あおはもゆ
安曇野人
安曇野人
あるひと
笑昇
中川 望
中川 望
中川 望
秀夫
やま男
やま男
吉川億空
吉川億空
まさえ
わらしべ

短歌の部

篠竹を押しのか育つ柊（ひいらぎ）の	
緑の新芽の棘の鋭き	Q太郎
山陰の音の響きは陰なれど	
水木しげるの妖怪陽キャラ	笑昇
冬鳥の去りた野と川ながめつつ	
渡りの無事を切に願わん	中川 望
コジュケイのチョットコイに誘われて	
姿探すも時ばかり過ぐ	中川 望
夕暮れに揺れる柳の不気味さよ	
怪談の種（タネ）ここに生まるる	中川 望
「受かったよ」十二の孫の弾む声	
喜寿の齢（よわい）に二重の喜び	ノー・ボール
三十五年時を超え見し母校には	
変わらぬ桜春を刻めり	秀夫
鶯の初音を聞けばこんぶくろ池には	
辛夷（こぶし）の白い花咲く	わらしべ

伯耆田氏ご逝去の報に接し

桜散る君の笑顔を偲びつつ	安曇野人
友愛すこんぶくろ森雨もよう	安曇野人
春愁や同志旅立ち無言森	ノー・ボール
雨後の道清し木道道具にも	
感謝し偲ぶ優しき笑顔	まさえ
木道や遊歩道にも伯耆田の	
汗がしみ込む自然の森かな	わらしべ

あとがき

春になると自然の森には辛夷や蘭などの様々な花が咲き、鶯や霍公鳥等多くの野鳥が飛来してこんぶくろ池や弁天池も華やぎます。

このような森の仲間の伯耆田氏が逝去されたことは誠に残念ですが、句会・歌会に新たに1名の方が加わり、延べ12名の方々から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句二十句、短歌十首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一歩踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

今回は夏季（令和7年6月～令和7年8月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので投稿して下さい。お待ちしております。

新入会員紹介

遠藤 吉次さん



参加動機：散歩コースで長年利用している。清掃等でできることがあればお手伝いしたい。

趣味・好きなこと：釣り、キャンプ

貢献できそうなこと：公園整備、事務、情報処理・パソコン

取り組んでみたいこと・分野：散歩道の整備

ひとこと：皆さんが快適に利用できるようお手伝いします。